



平成 29 年 2 月 23 日

各 位

会 社 名 アプリックス IPホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役 兼 取締役社長 長 橋 賢 吾  
(コード：3727、東証マザーズ)  
問合せ先 代表取締役 兼 取締役社長 長 橋 賢 吾  
(TEL. 050-3786-1715)

## 平成 29 年 12 月期通期連結業績予想の公表に関するお知らせ

当社は、平成29年2月14日付「平成28年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」で開示したとおり、当期（平成29年12月期）の通期連結業績予想について開示を一時見合わせておりましたが、今般、平成29年12月期通期連結業績予想数値の算定が可能となりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想について

平成 29 年 12 月期通期連結業績予想（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益
前回発表予想 (A)	百万円 —	百万円 —
今回発表予想 (B)	1,054	12
増減額 (B-A)	—	—
増減率 (%)	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 12 月期)	1,526	△929

平成 29 年 2 月 23 日付「連結子会社（孫会社）の異動（株式譲渡）及び特別損失の計上に関するお知らせ」で開示したとおり、出版事業における連結子会社 3 社の株式譲渡契約を締結したことから、平成 29 年 12 月期第 2 四半期から当社グループ連結範囲から外れる見通しとなりました。そのため、本業績予想における売上高については、テクノロジー事業の売上高は当連結会計年度の第 1 四半期から第 4 四半期までの通期において 787 百万円、出版事業の売上高は当連結会計年度の第 1 四半期のみとなる 266 百万円の合計額となります。全体の売上高としては前期と比べて 5 億円の減少となる予定であるものの、テクノロジー事業の売上高は、当社 IoT モジュールを搭載した浄水器、空気清浄機等の IoT 製品が販売開始し、またアプリケーション及びクラウドシステムの開発等のソリューション売上が増加するなど、その成果が具体化していることから、今後の事業の収益性の拡大に向けて更なる取り組みを進めることで、前期テクノロジー事業の売上高 492 百万円と比べて 60%の増加となる見込みです。

営業損益につきましては、前期までに実施してきた固定費の削減や業務の効率化等のコスト削減策の実施等を当期においても引き続き継続することにより 12 百万円の営業利益となる見通しです。

※IoT 関連事業の海外における売上高の増加が見込まれる中、為替差損益を合理的に予測することは容易ではない等の理由により、平成 29 年 12 月期の経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては開示を控えさせていただいております。また、急拡大する市場の速度を合理的に予測するのは容易ではなく、第 2 四半期連結業績予想につきましても開示を控えさせていただいております。

## 2. 公表の理由

当社は、平成 29 年 2 月 14 日付「平成 28 年 12 月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の開示時点では当該出版事業の株式譲渡が交渉中であり、当該出版事業の株式譲渡が実現した場合は当社の業績数値が大きく変動することから、出版事業を含む当期(平成 29 年 12 月期)の連結業績予想数値を発表することは適切ではないと判断したため、当該決算短信の開示時点においては、平成 29 年 12 月期通期連結業績予想について一時的に開示を見合わせておりましたが、上記のとおり、当該出版事業の株式譲渡契約が締結し、平成 29 年 12 月期第 2 四半期から当社グループ連結範囲から外れる見通しとなり連結業績予想数値の算定が可能となったことから、平成 29 年 12 月期の連結業績予想を開示することとなりました。

(注) 上記の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上